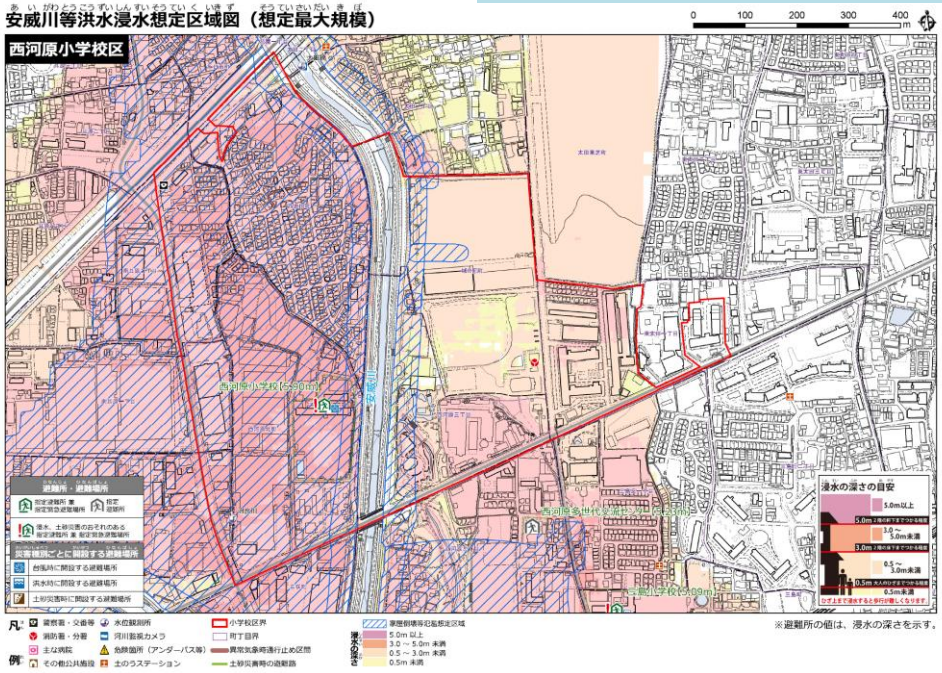
防災教育における小学校区版ハザードマップについて

◆経緯

茨木市内における全小学の４年生を対象に防災教育を行っており、児童にハザードマップを用いて自宅を探して浸水深等を確認するような単元を組み込む学校もある中、各学校の担任の先生から「ハザードマップを配付してもらえるのはありがたいが、地図が小さく子供たちが自宅や目印となる場所を見つけることができない。」という声が多かった。

◆内容

地理があまり分からない小学生でも自宅を見つけられるよう、ハザードマップ（浸水想定区域図）を各小学校区ごとに分割し、Ａ１サイズに印刷したものを配付し、防災教育の授業でご活用いただいた。



◆効果

児童たちが地理を理解し、自宅の浸水深を知ることで、危険性をより身近に感じることができた。また、どこにどのような危険があるか等を付箋に書き込んで、該当箇所に貼ることで、児童間での共有も図ることができた。